

放射性セシウムの追加的放出量 (Bq/時)

福島県原子力安全対策課
平成25年1月29日更新

政府・東京電力中長期対策会議では、1～3号機原子炉建屋からの現時点の放出量(セシウム)を、原子炉建屋上部等の空气中放射性物質濃度(ダスト濃度)を基に評価しています。

測定は、放射性物質が舞い上がるような作業が行われていない状況及び大物搬入口も閉塞された状態で行われています。

当月実施された評価は下表のとおりであり、1～3号機の放出量の合計は、前月の約0.1億Bq/時から変化無しと評価しています。なお、これによる敷地境界における被ばく線量は0.03mSv/年と評価しています。(0.03mSv/年は30μSv/年であり、時間あたりに換算すると0.0034μSv/時となります。)

(1) 平成24年12月の状況

原子炉 建屋	ダスト 採取場所	セシウム134 (Bq/cm ³)	セシウム137 (Bq/cm ³)	追加的放出量の 評価値 (億Bq/時)	備考
1号機	建屋カバー 排気設備	ND (検出限界1.1×10 ⁻⁶)	ND (検出限界1.4×10 ⁻⁶)	0.002	前月から 変化無し
	格納容器ガス 管理システム	ND (検出限界2.4×10 ⁻⁶)	ND (検出限界3.1×10 ⁻⁶)		
2号機	ブローアウト パネル開口部	ND (検出限界5.0×10 ⁻⁶)	ND (検出限界6.3×10 ⁻⁶)	0.007	前月から 変化無し
	格納容器ガス 管理システム	ND (検出限界2.6×10 ⁻⁶)	ND (検出限界3.3×10 ⁻⁶)		
3号機	原子炉建屋 (原子炉直上)	2.1×10 ⁻⁴	3.4×10 ⁻⁴	0.02	先月は 0.001Bq/時
	原子炉建屋 (機器ハッチ)	ND (検出限界1.6×10 ⁻⁵)	ND (検出限界2.0×10 ⁻⁵)		
	格納容器ガス 管理システム	ND (検出限界2.6×10 ⁻⁶)	ND (検出限界3.2×10 ⁻⁶)		
計				約0.1	前月から 変化無し

(問い合わせ先 024-521-1917)